

2022（令和04）年度 東北アジア研究センター共同研究報告書

提出 2023（令和5）年5月22日

代表者 磯貝 真澄

（本報告書はセンター内外への公開を原則とします）

研究題目	和文) ロシア・ムスリム地域における聖者崇敬・聖地参詣の社会史的研究 英文) Social History of Veneration and Pilgrimage in the Russian Muslim Region			
研究期間	2021（令和3）年度 ～ 2022（令和4）年度（2年間）			
研究領域	(D) 自然・文化遺産の保全と継承			
研究組織	氏名	所属・職名	専門分野	役割
	磯貝 真澄	千葉大学大学院人文科学研究 院・准教授／東北アジア研 究センター・客員研究員	ロシア・ムスリム 地域近現代史	研究全体の統 括、聖者廟の歴 史研究、墓碑銘 分析、データベ ース構築
	高倉 浩樹	東北アジア研究センター・教 授	ロシア・シベリア 人類学	DA での成果公 開にかかる知見 の提供
	程 永超	東北アジア研究センター・准 教授	日本近世史の人 文情報学援用	日本史研究にお ける人文情報学 的知見の提供
	田村 光平	学際科学フロンティア研究 所／東北アジア研究センタ ー・助教	人文情報学	DB 構築
	今松 泰	京都大学大学院アジア・アフ リカ地域研究研究科・特任准 教授	中東イスラーム 聖者崇敬・聖地参 詣史	聖者廟の比較史 研究、墓碑銘分 析、DB 構築
	矢島 洋一	奈良女子大学人文科学系・教 授	中央アジア・スー フィズム史、ムス リム諸語文献学	墓碑銘分析、聖 者廟の比較史研 究、DB 構築
	ファルフシャート フ、マルシル・N	ロシア科学アカデミー・ウフ ァ連邦研究センター歴史言 語文学研究所・上級研究員	ロシア・ムスリム 地域近現代史	聖者廟の歴史研 究
	アックベコフ、ラシ ト・Iu	ロシア科学アカデミー・ウフ ァ連邦研究センター歴史言 語文学研究所・上級研究員	ムスリム諸語文 献学	聖者廟の歴史研 究、墓碑銘分析
	ルスラノフ、エヴゲ ーニイ・V	ロシア連邦バシコルトスタ ン共和国文化遺産保護局・考	考古学	考古学的知見の 提供、行政当局

		古遺産部長		との連絡
研究経費	学内資金	センター長裁量経費 [金額] 300,000 円		
	外部資金(科 研・民間等)	科研費基盤研究(C)「西北ユーラシアと中央アジアの イスラーム聖者と聖者廟の社会史的研究」(課題/領 域番号 19K01033、研究代表者: 今松泰)	[小計] 1,109,031 円	
	合計金額	1,409,031 円		
研究の目的と本年度 の成果の概要 (600-800 字の間で 専門家以外にも理解 できるようまとめて ください。)	<p>本研究は、ロシアのムスリム社会におけるイスラーム信仰の様相を明らかにすることをめざし、イスラーム聖者とその墓廟をめぐる信仰実践の様相を解明するものである。中心的研究対象は、ロシア連邦バシコルトスタン共和国ウファ市近郊、チシムィ地区にあるフセイン・ベク廟とアクズィラト墓地である。墓廟・墓地にある墓石とその墓碑銘、それらをめぐる聖者崇拝や聖地参詣の様相を歴史文献学的手法で研究するとともに、写真撮影で収集した墓碑銘等の資料をインターネット上で公開し、研究資料の共有と文化遺産の保全も実現する。</p> <p>本年度は、昨年度公開した画像データベース“An Islamic Sacred Site and Epitaphs in the Southern Urals” / 「南ウラルのイスラーム聖地と墓碑銘」(『地域研究デジタルアーカイブ』、東北アジア研究センター)のメタデータ拡充について著作権処理を踏まえ検討し、現状の簡単なメタデータにとどめておくことを決めた。諸々の情報は画像DBのメタデータではなく、墓碑銘の翻刻や解説をまとめた論文に収録する。その作業を進めるため、研究代表者磯貝と今松は、昨年度新型コロナウイルス感染拡大に起因して実施できなかった、国外での史資料の収集を行った。ただし、ロシアによるウクライナ侵略戦争のためロシアには出張できず、ウズベキスタン(タシケント市)やトルコ(イスタンブール市)で作業をした。ロシアで刊行された史資料で、書店を経由して入手可能なものも収集し、墓碑銘とあわせて分析を進めている。ロシアの研究者と連携することが難しくなっているが、共著で、または助言を受けて、論文などの成果公開を進める。</p>			
本年度の活動におけ る東北アジア地域研 究としての意義につ いてアピール	<p>本研究が東北アジア地域研究に対してなし得る貢献は、次の諸点である。</p> <p>①人文情報学を援用した地域研究の手法について、事例を提示する。 ②歴史研究者と考古学者などによる学際的国際共同研究の事例を蓄積する。 ③ウクライナ戦争の展開を踏まえ、日露の学術共同研究の方法を探る。</p>			
研究集会・企画	研究会・国内会議・講演会など	0 回	国際会議: 0 回	
	研究組織外参加者(都合)	人	研究組織外参加者(都合): 人	
研究成果	学会発表(2)本	論文数(2)本	図書(1)冊	
専門分野での意義	[専門分野名] 歴史学	[内容] アクセスの容易でない歴史資料である、フィールドに存在する碑文の高解像度の写真を国際学界に提供している。		
学際性の有無	[有]	参加した専門分野数: [3] 分野名称[歴史学、考古学、人文情報学]		
文理連携性の有無	[無]	特筆事項: 人文情報学ではあるが、情報学との接点がある。		
社会還元性の有無	[有]	[内容] 文化遺産、とくに観光資源として整備が進められるため、保全の難しくなっている参詣地(墓廟、墓地)を写真で記録し、ウェブ上の画像データベースとして公開している。それは研究目的だけでなく、教育目的やバーチャル観光資源としても利用可能である。		
国際連携	連携機関数: 2	連携機関名: ロシア科学アカデミー・ウファ連邦研究センター 一歴史言語文学研究所、ロシア連邦バシコルトスタン共和国文化遺産保護局・考古遺産部		

国内連携	連携機関数：	連携機関名：
学内連携	連携機関数：	連携機関名：
教育上の効果	参加学生・ポスドクの数：0	参加学生・ポスドクの所属：
第三者による評価・受賞・報道など	特になし	
研究会計画全体のなかでの当該年度成果の位置づけと今後の課題	昨年度は新型コロナウイルス感染拡大への対応のため実施できない作業があった。本年度はロシアによるウクライナ侵略戦争のため、ロシアに出張したり、ロシアの研究者と連携したりして作業することが困難だった。そのため当初予定した進捗で作業を行うことができていないが、今後、当初計画通りの成果を公開する予定である。成果の一部については、下記の業績を参照されたい。	
最終年度	該当	

本共同研究に関わる業績（発表予定含む）

〔学会発表〕

磯貝真澄「19世紀末ヴォルガ・ウラル地域の教区簿：婚姻・離婚の記録」、『第21回中央アジア古文書研究セミナー』、京都：京都大学、2023年3月25日。

今松泰「オスマン朝における聖者信仰と聖者廟」、『近世ユーラシアの宗教アイデンティティ：グローバル多元主義と地域大国主義の相克』、オンライン（東京：東京大学）、2022年11月23日。

〔雑誌論文〕

磯貝真澄「ロシア帝国末期ヴォルガ・ウラル地域のムスリム知識人とイスラーム宗務行政：ムスリム家族規範論からみえる結びつき」、磯貝真澄・帯谷知可（編）『中央ユーラシアの女性・結婚・家庭：歴史から現在をみる』（アジア環太平洋研究叢書6）、国際書院、2023年、101～136頁。

磯貝真澄「ソ連初期のムスリム知識人による自己語り：1928年のハサンアター・ガベシーの自伝的回想を読む」、野田仁（編）『近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照』、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2023年、225～243頁。

〔図書〕

田村光平『つながりの人類史：集団脳と感染症』、PHP研究所、2023年。

〔その他〕

磯貝真澄「人名録出版に埋め込まれた信頼」、『イスラーム信頼学 News Letter』3（科研費学術変革領域研究(A)「イスラーム信頼学」）、2023年、18～19頁。

今松泰「タリーカ、聖者崇敬（トルコ）」、八木久美子（編）『イスラーム文化事典』、丸善出版、2023年、594～595頁。

*ファイル名は KyodoRpt_年度_代表者ローマ字とする。二つある場合、代表者名の後に1, 2と記入する（例 KyodoRpt_2013_oka1）。